

本庄市立図書館協議会次第

日時 令和5年2月14日(火)
午前10時30分～正午
場所 本庄市立図書館2階 会議室

1. 開 会

2. あいさつ

3. 議 事

(1) 第3次本庄市子ども読書活動推進計画の策定について

4. その他

5. 閉 会

第3次本庄市子ども読書活動推進計画（案）の
パブリックコメントの結果について

令和5年1月11日（水）から令和5年2月9日（木）まで、第3次本庄市子ども読書活動推進計画（案）に対するパブリックコメントを実施したところ、意見の提出はありませんでした。

【問い合わせ先】
教育委員会事務局 図書館
TEL：0495-24-3746

第3次 本庄市子ども読書活動推進計画(案) 令和5年度～9年度

概要版

1 計画の目的

すべての子どもたちが読書の楽しさや大切さを知り、自ら進んで本を読むことができる環境をより一層整備し、次代を担う心豊かな子どもたちを育成することを目的とします。すべての市民が子ども読書活動の重要性を理解し、家庭・地域・図書館・学校等が連携・協力し、子どもが本に触れる機会の拡大を推進します。

2 計画の概要

本庄市では、「子どもの読書活動の推進に関する法律」に基づき、子どもの読書活動を円滑に進めるため、平成24年度に「本庄市子ども読書活動推進計画」を策定、平成30年度に「第2次本庄市子ども読書活動推進計画」を策定しました。
「第3次 本庄市子ども読書活動推進計画(案)」は、第2次計画の施策の成果や社会情勢の変化及びアンケート調査結果、また本庄市図書館協議会等での意見を踏まえ、令和5年度から9年度までの5年間を計画期間として作成したものです。なお、この計画は、「本庄市総合振興計画」を上位計画とし、「本庄市生涯学習推進指針」などの各計画と連携・整合を図ったものとなっています。

3 課題

(1) 家庭における読書活動の推進

- 家庭内で、本をいつでも手にできる環境をつくり、読み聞かせや読書を通じて、本を好きになれるよう、家庭で読書に親しむ習慣づくりを推進する必要があります。

(2) 地域における読書活動の推進

- 子どもの読書活動推進のため、多数の団体やボランティアグループの地域での活動は定着していますが、子どもの読書活動を総合的に推進するための連携と体制は不十分です。

(3) 市立図書館における読書活動の推進

- 子どもの図書館利用促進のため、蔵書の拡充や児童室の多彩な活用、中高生向けイベントの開催等が必要です。
- 市立図書館を中心に学校・施設・各種団体の状況を把握し、連携を密にする推進が求められています。

(4) 学校等における読書活動の推進

- 学校等の各施設は、それぞれの年代に合わせた読書活動に工夫が見られますが、読書量や図書館利用の減少傾向に対応する必要があります。

4 基本理念と目標

～基本理念～ 本庄市のすべての子どもが、「本を読むこと、聞くこと、見ること」を大切に、読書を楽しめるようにします。

目標

- 読書によって心と感性を豊かにし、本の好きな子どもに育つよう、親子で本に親しむ習慣の定着を図ります。
- 「本や物語を声に出して読むこと、聞くこと、見ること」を重視し、ブックスタート、読み聞かせ、おはなし会、朗読会、ストーリーテリング等の事業の充実を図ります。
- すべての子どもが活発な読書活動を送れるように、各学校、施設、団体、市民が相互に連携・協力して、体制を整備します。

5 読書活動の推進に向けた取組み

1. 家庭における読書機会の提供と環境の充実

- 子どもと保護者が一緒に本を好きになることの推進
- 家庭読書の推奨
- ブックスタートの充実
 - 赤ちゃん健診でのブックスタートをきっかけに、家庭での読み聞かせを広めます。

2. 地域における読書機会の提供と環境の充実

- 地域の連携体制の構築
 - 子どもの読書活動に関わるボランティアや地域の団体等の連携を深めます。
- 地域の図書館等を支援する体制の整備
 - 市立図書館以外の図書館を支援する人を養成します。
- 「子ども読書の日(4月23日)」の取組
- 「秋の読書週間(10月27日～11月9日)」の取組

3. 市立図書館における読書機会の提供と環境の整備・充実

- 蔵書の充実と貸出数の増加
- 子どもの市立図書館利用の促進
 - 児童室やヤングアダルトコーナーの充実とPRを強化し、子どもの利用を増やします。
- ボランティアの育成・支援
 - ボランティア養成講座を拡充し、読み聞かせ等の協力をバックアップします。
- 市立図書館の施設・設備の活用
- 読書に親しむための支援
 - 推薦図書のご案内、読書手帳、イベント、移動図書館、団体貸出、図書館見学等の多彩な企画を通じて、子どもに読書の魅力を提供します。
- 読書に支援を要する子どもへの取組
 - LLブックや外国語資料等の収集や提供を行います。

4. 学校等における読書機会の提供と環境の整備・充実

- 幼稚園・保育園(所)等での推進
 - 読み聞かせやおはなし会への支援をします
- 市立小学校・中学校での推進
 - 学校図書館におけるICT化の推進及び学校図書館支援員の配置を行います。
- 私立中学校及び高等学校での推進
 - 学校間のネットワークにより、中高校生のニーズに合った読書活動を推進します。

5. 児童施設等における読書機会の提供と環境の整備・充実

- 児童センターでの推進
 - 子育て支援団体と連携し、読書活動を推進します。
- 保健センターでの推進
 - ブックスタートを継続し、内容の充実に努めます。
- 子育て支援センター・学童保育所での推進
- 公民館やその他施設での推進
 - 公民館やはにぼんプラザを読書活動推進のための会場として活用を図ります。

6. 家庭・地域・学校・図書館の連携・充実

- 推進体制の整備
 - 市立図書館と学校図書館の共通課題の解決に向け、相互の連携と協力体制を確立します。
 - ボランティア間の情報交換会により、課題解決とおはなし会等の活動の活性化を図ります。
- 人材の育成と活用
 - 関係職員やボランティアの知識習得や技術向上を支援し、子ども読書活動の推進に役立ちます。
- 情報の提供と活用
 - 子どもの読書活動について啓発・広報活動を行います。

第3次本庄市子ども読書活動推進計画 (案)



令和5年3月
本庄市

はじめに

読書は、私たちの生活を楽しく豊かにするだけでなく、人生において大きな影響を及ぼすことがあります。特に次世代を担う子どもたちにとって、読書とは、言葉を学び、感性を磨きながら健やかに成長していくうえで欠かせないものです。

盲目の国学者として知られる郷土の偉人、塙保己一も周囲の理解者に本を朗読してもらい、耳で読書を続けた結果、群書類従の編纂など数々の偉業を成し遂げました。

しかし、近年では、情報メディアの普及により、子どもたちの生活の中で、本の存在感が薄れはじめ、読書活動に費やす時間も年齢を追うごとに減少しているなど、子どもの読書離れが懸念されています。

そこで、読書が持つ無限の可能性を信じ、読書をする喜びや感動を子どもたちに伝えるために、本市では平成24年度に「本庄市子ども読書活動推進計画」を策定し、読書によって子どもたちの豊かな感性と考える力を育む取組を進めてまいりました。

この度、本市では、平成30年度に策定した「第2次本庄市子ども読書活動推進計画」の成果と課題を踏まえ、「第3次本庄市子ども読書活動推進計画」を策定いたしました。本庄市総合振興計画で掲げる本市の将来像「あなたと活かす みんなで育む 歴史と教育のまち 本庄 ～世のため、後のため～」の実現を目指し、健やかな次世代の育成と活力のある地域づくりを推進するために、家庭、地域、学校、図書館などが連携して子どもたちの読書活動の総合的な支援に取り組んでまいりますので、多くの市民の皆様のご協力をお願い申し上げます。

本計画の策定にあたり、貴重なご意見をいただきました、本庄市図書館協議会委員の皆さまをはじめ、アンケート調査にご協力いただきました、市民の皆さまに厚く御礼申し上げます。

令和5年3月

本庄市長 **吉田信解**

目 次

第1章	計画策定の趣旨	
1	計画策定の目的	1
2	計画策定の背景	1
	(1) 社会情勢の現状	1
	(2) 国及び埼玉県の動向	1
	(3) 本庄市の動向	2
3	計画の内容	2
	(1) 計画の対象者	2
	(2) 計画の期間	2
	(3) 計画の位置づけ	2
第2章	第2次計画期間における取組と成果及び現状と課題	
1	第2次計画期間における取組と成果	4
2	子どもの読書活動推進の現状と課題	7
	(1) 家庭における読書活動の推進	7
	(2) 地域における読書活動の推進	8
	(3) 市立図書館における読書活動の推進	8
	(4) 学校等における読書活動の推進	9
	(5) 児童施設・保健施設・社会教育施設等における読書活動の推進	10
第3章	第3次計画の基本的な考え	
1	計画の基本理念	13
2	計画の目標	13
第4章	計画の推進に向けた取組	
1	家庭における読書機会の提供と環境の充実	14
	(1) 子どもと保護者が一緒に本を好きになることの推進	14
	(2) 家庭読書の推奨	14
	(3) ブックスタートの充実	14
2	地域における読書機会の提供と環境の充実	15
	(1) 地域の連携体制の構築	15
	(2) 地域の図書館等を支援する体制の整備	15
	(3) 「子ども読書の日(4月23日)」の取組	15
	(4) 「秋の読書週間(10月27日～11月9日)」の取組	15

3	市立図書館における読書機会の提供と環境の整備・充実	15
	(1) 蔵書の充実と貸出数の増加	15
	(2) 子どもの市立図書館利用の促進	16
	(3) ボランティアの育成・支援	16
	(4) 市立図書館の施設・設備の活用	17
	(5) 読書に親しむための支援	17
	(6) 読書に支援を要する子どもへの取組	18
4	学校等における読書機会の提供と環境の整備・充実	18
	(1) 幼稚園・保育園（所）等での推進	18
	(2) 市立小学校・中学校での推進	19
	(3) 私立中学校及び高等学校での推進	20
5	児童施設等における読書機会の提供と環境の整備・充実	20
	(1) 児童センターでの推進	20
	(2) 保健センターでの推進	20
	(3) 子育て支援センター・学童保育所での推進	21
	(4) 公民館やその他施設での推進	21
6	家庭・地域・学校・図書館の連携・充実	21
	(1) 推進体制の整備	21
	(2) 人材の育成と活用	21
	(3) 情報の提供と活用	22

資料編

読書に関するアンケート調査結果	23
【個別アンケート】	23
幼児（年長組）と保護者へのアンケート	24
小学5年生へのアンケート	27
中学2年生・高校2年生へのアンケート	31
【学校・施設・団体アンケート】	35
学校・施設からのご意見	36
子育て支援団体からのご意見	37
ブックスタートボランティアからのご意見	39

参考資料

子どもの読書活動の推進に関する法律	40
-------------------	----

第1章 計画策定の趣旨

1 計画策定の目的

すべての子どもは、無限に成長できる大きな可能性を秘めています。その可能性の開花に重要な役割を果たすのが読書です。子どもは、読書を通じて未知の世界に出会い、物語に感動し、夢を膨らませ、しなやかな感性を養い、自立した一人の人間として成長することができます。子どもにとって、読書はかけがえのない大切なものであり、次世代の健やかな育成のために読書活動を推進することが必要です。

こうしたことから、本市では、平成24年度に「本庄市子ども読書活動推進計画」(以下「第1次計画」という。)を、また平成30年度に「第2次本庄市子ども読書活動推進計画」(以下「第2次計画」という。)を策定し、子どもが読書に親しむ機会と読書環境の整備・充実に努めてきました。

今回の「第3次本庄市子ども読書活動推進計画」(以下「第3次計画」という。)は、第2次計画の取組と成果を踏まえ、子どもが読書の楽しさを知り、本にふれる機会や本を読むための環境をより一層充実するために策定しました。

2 計画策定の背景

(1) 社会情勢の現状

わが国では、少子高齢化、人口減少、高度情報化、国際化が急激に進行し、家族の形やライフスタイルに大きな変化が生じています。

また、近年のスマートフォンなどの情報通信機器やデジタルメディアの急速な普及は、子どもの日常生活と読書環境に大きな影響を与えるとともに、伝統的な「紙の本」という書籍の形態にも大きな変化が生じています。

このような大きな環境変化の中で、子どもの興味や関心の多様化が進み、子どもの活字離れや本離れが更に進むことが憂慮されています。

(2) 国及び埼玉県の動向

国では、「子どもの読書活動の推進に関する法律」の施行(平成13年12月)を受け、平成14年8月に第1次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定し、おおむね5年間にわたる施策の基本的方向と具体的な方策を明らかにしました。

平成20年には、第2次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策定、平成25年5月には、第3次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」を策

定し、平成30年4月には第4次「子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画」(以下「国計画」という。)を策定し、子どもの読書環境の充実を図ってきました。

埼玉県でも、平成14年2月策定の「彩の国教育改革アクションプラン」の中で、豊かな心をはぐくむ教育を推進する重要な柱として、子どもの読書活動の推進を掲げています。平成16年には「埼玉県子ども読書活動推進計画」を策定し、平成21年には「埼玉県子ども読書活動推進計画(第2次)」、平成26年7月には、「埼玉県子供読書活動推進計画(第3次)」を策定しました。平成31年3月には、「埼玉県子供読書活動推進計画(第4次)」(以下「県計画」という。)が策定され、子どもたちの読書習慣の形成や読書への関心を高める取組を充実・促進することが述べられています。

(3) 本庄市の動向

本市では、平成24年4月に「第1次本庄市子ども読書活動推進計画」を策定、平成30年4月に「第2次本庄市子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもの健やかな成長のために読書活動の重要性を共有し、市立図書館をはじめ、地域の幼稚園・保育園(所)、小学校、中学校、高等学校などの各教育機関、児童センターなどの各施設、ボランティアグループや有志の方々と様々なアプローチにより、読書活動を通じて次世代の健全育成に取り組んできました。

また、長年にわたる子ども読書活動が認められ、令和2年度子供の読書活動優秀実践図書館として、文部科学大臣表彰を受けました。

今後は、新たな「本庄市総合振興計画」、「本庄市教育大綱」の下、「第3次本庄市子ども読書活動推進計画」を策定し、子どもの読書活動を総合的に推進します。

3 計画の内容

(1) 計画の対象者

本計画の対象者は、おおむね18歳以下の子どもとします。

(2) 計画の期間

本計画は、令和5年度(2023年度)から令和9年度(2027年度)までの5年間の計画とします。

(3) 計画の位置づけ

- ① 本計画は、子どもの読書活動を推進する本市の基本理念を定めるとともに、基本理念に基づく施策推進の目標を示すものです。
- ② 本計画は、子どもの読書活動の推進に関する法律(平成13年法律第154号)第9条第2項の規定に基づく「市町村子ども読書活動推進計画」として位置づ

け、国計画及び県計画を基本として本市の状況を踏まえ策定しました。

- ③ 本計画は、「本庄市総合振興計画」を上位計画とし、「本庄市教育大綱」の下、「本庄市生涯学習推進指針」などをはじめとする本市の各計画と連携・整合を図るものです。

第2章 第2次計画期間における取組と成果及び 現状と課題

1 第2次計画期間における取組と成果

本市では、平成24年4月の第1次計画の策定、平成30年4月の第2次計画の策定以降、家庭・地域・図書館・学校等において、子どもの読書活動推進のため様々な取組を行ってきました。

今回、第3次計画の策定にあたり、第1次計画策定時及び第2次計画策定時と同様のアンケート調査により、子どもの読書への取組状況を調査しました。

ここでは、読書に関する各種団体や諸施設、各年代からいただいたご意見を集約し、第2次計画における取組の成果及び、読書活動の拠点である市立図書館の状況などから課題を分析しました。

今回のアンケート調査は、前回(平成29年9月～10月実施)とほぼ同内容の調査項目とし、小・中学生の読書離れが進んでしまったと捉えられる結果となってしまった項目があります。令和2年から新型コロナウイルス感染症の流行が繰り返される中で、家庭・地域・図書館・学校等での様々な活動が制限・制約されてきたことが、影響しているものと考えられます。

Q：本を読むことが好きですか？

	H29年		R4年	
	好き どちらかという好き	嫌い どちらかという嫌い	好き どちらかという好き	嫌い どちらかという嫌い
幼児	90.7%	9.3%	91.9%	8.1%
小5	86.3%	13.7%	73.1%	26.9%
中2	83.7%	16.3%	80.4%	19.6%
高2	70.1%	29.9%	73.8%	26.2%
保護者	82.4%	17.6%	81.1%	18.9%

「本を読むことが好きですか？」との質問では、「好き・どちらかという好き」を合わせた答えが幼児とその保護者、そして、小学生・中学生ともに7割から9割に上り、本市では子どもの読書に対する興味や関心は、高い水準にあります。しかし平成29年度調査では、「好き・どちらかという好き」と答えた小学生が86.3%だったものが、令和4

年度調査では73.1%へと減少し、同様に中学生は83.7%が80.4%へと減少していることから、第2次計画策定時よりも小・中学生の読書離れが進んでしまった結果となっています。

これらに対して、高校生は70.1%から73.8%へと増加しており、第2次計画策定時と比べて改善傾向が見られています。

また、幼児とその保護者では、幼児は約1ポイント増加、その保護者は約1ポイント減少と、ほぼ横ばいとなっております。

Q：本を読むきっかけは何ですか？

	小学生	中学生	高校生
学校で本を読む時間があったから (朝の一斉読書など)	36.4%	43.1%	36.8%
学校や図書館のおはなし会に参加して 本に興味を持ったから	5.3%	2.3%	5.6%
小さい頃、家族に本を読んでもらって 楽しかったから	19.6%	9.8%	13.7%
他人にすすめられたから	9.8%	10.7%	8.6%
話題になっているから	10.5%	14.8%	18.3%
作者が好きだから	6.7%	10.9%	10.6%
その他	11.7%	8.4%	6.4%

「本を読むきっかけは何ですか？」との質問では、「学校での一斉読書*」と答えた割合が小中高生ともに最多であり、多くの市内小・中学校で実施されている「一斉読書」の効果が、子どもの読書に大きな影響を与えていると考えられます。

また、小学生では「家庭での読み聞かせ*」がきっかけとなった割合も高く、幼児期に家族から本を読んでもらうことの重要性が認識できます。

*一斉読書…小中学校において、朝の授業が始まる前など、時間を決めて全校一斉に読書すること。

*読み聞かせ…主として子どもに対して、本を読んで聞かせること。

Q：最近1か月間に、本を何冊くらい読みましたか？

H29年			R4年		
	平均冊数	「0冊」と回答した人		平均冊数	「0冊」と回答した人
幼児	6.2冊	0.5%	➔	6.1冊	1.9%
小5	5.9冊	6.4%		4.3冊	18.5%
中2	3.7冊	9.1%		2.8冊	16.7%
高2	1.6冊	47.4%		1.3冊	52.9%
保護者	3.1冊	27.9%		3.3冊	26.5%

「最近1か月間に、本を何冊くらい読みましたか？」という質問では、保護者を除きいずれの年代も減少傾向で、読書量の低下が進んでいる状況です。

「学校での一斉読書」を除いた、1か月間に一冊も本を読まなかった割合では、中学生で16.7%、高校生になると半数近い52.9%に上ります。概ね年齢が進むにつれ割合が高くなる傾向は、第2次計画策定時の調査と同様と言えます。

また、「全国学校図書館協議会」が令和4年度に行った「第67回学校読書調査」でも、1か月間に一冊も本を読まなかった割合は、中学生が18.6%、高校生は51.1%に上っており、高校生になると読書0冊の人が急に増えるのは、全国共通の現象といえます。

◇市立図書館の蔵書数（本館・児玉分館合計）

区分	H29年度	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度
一般図書 資料図書	145,242冊	144,655冊	144,252冊	145,839冊	145,763冊
児童図書	84,374冊	86,424冊	88,412冊	89,320冊	90,737冊
合計	229,616冊	231,079冊	232,664冊	235,159冊	236,500冊
蔵書における 児童書の割合	36.7%	37.4%	38.0%	38.0%	38.4%

*令和2年度 コロナ禍による休館期間あり。

*雑誌、AV資料は含まない。

市立図書館の蔵書総数は、約23万冊台で推移しておりますが、児童図書は、総数・割合ともに増加しています。

◇市立図書館の貸出数（本館・児玉分館合計）

区 分	H29年度	H30年度	R 元年度	R 2 年度	R 3 年度
一般図書 資料図書	143,878 冊	140,624 冊	140,035 冊	103,153 冊	123,735 冊
児童図書 団体貸出(再掲)	162,531 冊 (38,045 冊)	161,013 冊 (40,897 冊)	161,289 冊 (41,806 冊)	124,884 冊 (36,309 冊)	158,272 冊 (43,308 冊)
合 計	306,409 冊	301,637 冊	301,324 冊	228,037 冊	282,007 冊
貸出における 児童書の割合	53.0 %	53.4 %	53.5 %	54.8 %	56.1 %

*令和2年度 コロナ禍による休館期間あり。

*雑誌、AV資料は含まない。団体貸出を含む。

図書の貸出数では、令和2年度にコロナ禍の影響で減少しましたが、令和3年度には回復傾向を示しています。また、貸出総数における児童図書の割合は、一般図書等を上回っています。

学校と連携し取組んできた団体貸出*は、コロナ禍での一時的な減少を除けば、順調に貸出数を伸ばしています。

2 子どもの読書活動推進の現状と課題

第2次計画の推進を踏まえ、本市における子どもの読書活動の現状と課題を家庭・地域・市立図書館・学校・児童施設・保健施設・社会教育施設等から考察します。

(1) 家庭における読書活動の推進

【 現 状 】

本市では、学校や市立図書館、児童施設や子育てイベントなどで「おはなし会*」や「読み聞かせ」を広く実施し、「ブックスタート*」、「ストーリーテリング*」や「ブックトーク*」などの事業を通じて、家庭での読書の重要性をPRするとともに、子どもと保護者の読書活動を支援しています。世代別で見ると、子どもの読書量は幼児期は多くなっていますが、どの世代も読書量は落ち込んでいます。

特に、中学生以上の子どもでは、読書量が減少するだけでなく、読書0冊の子ども

*団体貸出…図書館に登録した地域の施設や団体、学校に、一度につき50冊まで、1か月間本を貸し出しするサービス。

*おはなし会…市立図書館では幼児・小学校低学年を対象として絵本の読み聞かせ・紙芝居・おはなし等を行う「おはなし会」と、乳幼児とその保護者を対象として絵本の読み聞かせ・わらべうた・手遊び等を行う「絵本とわらべうたのおはなし会」を実施。

*ブックスタート…絵本を介して赤ちゃんや保護者が楽しい時間を分かち合うことを応援する活動。

*ストーリーテリング…物語を覚えて語り聞かせること。

*ブックトーク…ある1つのテーマに沿って、数冊の本を順序立てて紹介すること。

もが増えていきます。その理由として、勉強や部活動等により読書の時間が確保できない現状やゲームなどの遊びを優先している傾向が見受けられます。

【課題】

家庭内において、本をいつでも手にできる環境をつくり、楽しい読み聞かせや読書を通じて、本を好きになれるよう家庭で読書に親しむ習慣づくりを推進する必要があります。

また、情報通信機器が家庭内にも浸透しているため、幼児期からスマートフォン・タブレットやパソコン等に触れる機会が多くなり、「紙の本」による読書の時間や楽しみ方が衰退していくことが懸念されます。

(2) 地域における読書活動の推進

【現状】

本市では、子どもを健やかに育むために多数の団体やボランティアグループが地域で活動しています。各団体は様々な活動の中で、子どもの読書活動推進のために、幼稚園・保育園(所)、学校や学童保育所、また、児童センターや公民館等の市内各施設を活用し、子育て支援イベントや講座等を中心に多くの催しを実施していますが、近年は、コロナ禍により活動が制限された時期がありました。

【課題】

これらの団体やボランティアグループの活動は定着してはいるものの新規メンバーの加入が進まない団体もあり、子どもの読書活動を総合的に推し進めるための連携は十分とはいえないため、地域全体で推進できる体制を整備することが求められています。

(3) 市立図書館における読書活動の推進

【現状】

市立図書館は、本館と児玉分館の2館体制で運営され、児童図書の充実や各種イベントの開催により、子どもの利用の促進に努め、移動図書館車*の小学校への運行やクラスへの団体貸出にも取り組み、コロナ禍の臨時休館中も小学校への団体貸出を行いました。

また、「おはなし会」の開催、「ブックスタート」の実施、読書活動に関係する団体やボランティアの支援などを通じて、家庭や地域における子どもの読書活動も支援しています。

【課題】

市立図書館は、子どもの図書館利用を促進するため、子どものニーズに沿った蔵

*移動図書館車…図書館外へ図書館資料を積んで移動し、貸出を行う自動車のこと。

書の拡充や児童室での多彩な活用が求められます。特に、「ヤングアダルト*コーナー」のより一層の充実や、中高生に多く利用してもらうための「朗読会*」「ビブリオバトル*」開催等の工夫も必要です。

また、市立図書館が、子どもの読書活動推進の中心的な役割を担い、学校・施設・各種団体の状況を把握し、連携を図っていく必要があります。

(4) 学校等における読書活動の推進

① 幼稚園・保育園(所)等

【現状】

本市には、私立幼稚園が3園、私立保育園が14園、市立保育所が2所、認定こども園が8園あります。それぞれの園(所)では、独自のカリキュラムにより、多彩な読書活動が実施されています。また、園(所)内に設置された図書コーナーの充実にも取り組み、「本の読み聞かせ」や「おはなし会」は日常的に実施されており、読書活動を通じて子どもを健やかに育てています。

【課題】

幼稚園・保育園(所)の、市立図書館で実施する幼児向けイベントへの参加や大型絵本の特別貸出等が少ないのは、PR不足が考えられます。

また、幼稚園・保育園(所)から、園児を連れてくる「図書館訪問」などは幼児の利用拡大のために積極的に受け入れることも必要です。

② 市立小学校・中学校

【現状】

本市には、市立小学校が12校、市立中学校が4校あります。

小学校・中学校では、国語科などの学習を通じて読書を指導するとともに、調べ学習や学校図書館の利用、また、子ども間での交流を通して読書活動を推進しており、各校とも学校図書館の適正な管理運営と利用拡大を目指した取組が行われています。

また、学校図書館支援員を各小学校・中学校に配置し、GIGAスクール構想により1人1台端末環境が整備されました。

アンケートによると、読書のきっかけが、「学校の一斉読書」と答えた子どもの割合が最多で、読書への影響力は非常に大きく、子どもの読書活動の土台作りに役立っています。

また、小学校では、「おはなし会」と「読み聞かせ」、中学校でも「読み聞かせ」を、

*ヤングアダルト…「若いおとな」という意味で、13歳～18歳の中高生にあたる世代を指す言葉として使われる。

*朗読会…詩歌や文学作品などを読み上げ、鑑賞する会。

*ビブリオバトル…発表者たちが5分間で本の魅力を紹介しあい、聴衆の投票数で勝敗を決める「知的書評合戦」。

それぞれボランティア団体と協力して開催しているところもあり、子どもの読書のきっかけづくりを行っています。なお、小学校へは、市立図書館から移動図書館車の運行や団体貸出を行っています。

【 課 題 】

各校の学校図書館では、「学校図書館図書標準*」に基づく選書や蔵書管理を行い、児童生徒が利用しやすい管理運営体制を整備していく必要があります。

「学校の一斉読書」は、ほぼ全校で行われていますが、時間の確保については、学校行事との関連から制約が生じています。また、移動図書館の利用では、小学校高学年の利用が少なくなる傾向があります。

③ 私立中学校及び高等学校

【 現 状 】

本市には、私立中学校が2校、また、県立高等学校が3校、私立高等学校が3校あります。各学校では、それぞれの教育理念のもと、司書を中心に学校図書館の充実が図られ、国語科の授業と連動した取組の実施や、図書委員による推薦図書の紹介などを通して生徒の読書活動を推進していますが、市立図書館を利用した読書活動は、あまり多くない状況です。

【 課 題 】

本市のアンケートや全国調査でも、1か月間の読書0冊と答えた高校生の割合が非常に高く、子どもの読書活動の大きな課題となっています。

また、特に高校生の市立図書館利用促進も必要です。

(5) 児童施設・保健施設・社会教育施設等における読書活動の推進

① 児童センター

【 現 状 】

本市には、児童センターが3館あり、子どもの大切な遊び場所として機能しています。児童センターには、「図書コーナー」が設置されており、「読み聞かせ」や「おはなし会」を開催するなど、子どもの読書活動に重要な役割を果たしています。

また、本市の次世代育成の拠点として「つどいの広場*」、「子育て講座」などの子育て支援事業が盛んに開催され、保護者による「絵本の読み聞かせ」などが取り入れられています。

* 学校図書館図書標準…文部科学省の定める（文初小第209号平成5年3月29日文部省初等中等教育教育長通知）
学校図書館に整備すべき蔵書の標準。

* つどいの広場…乳幼児親子が自由に集まり、交流できる場。担当の保育士が常駐し、親子でふれあう遊びの講座や育児相談等を開催している。

【 課 題 】

市立図書館と児童センターを利用する対象が、同年代の子どもであることから、双方で開催している事業について相互利用を促すための連携強化が必要です。

② 保健センター

【 現 状 】

保健センターでは、親子の関係づくりや子どもの心を育む方法のひとつとして絵本の活用を推奨しているほか、市立図書館と連携し、9～10か月児健康相談時に「ブックスタート」を行っています。

【 課 題 】

保健センターは、母子保健事業の拠点であり、子どもと保護者が来訪する機会が多い施設です。親子での読書活動を啓発する場として、今後も、「ブックスタート」を継続するとともに、親子の読書活動への支援の充実が求められています。

③ 子育て支援センター・学童保育所

【 現 状 】

本市には、子育て支援センターが7か所、学童保育所が22か所あります。

子育て支援センターは、保育園等の施設の中に設けられ、子育て家庭を対象とした様々な教室、講座、イベントや育児相談、身体測定等の実施により、子育てをサポートしています。各センターの教室では、「読み聞かせ」や「おはなし会」等の読書に関する活動も実施されています。

学童保育所は、留守家庭の小学生を対象に放課後保育を行っており、本を読む時間を設けるなど、読書を通じた保育も進めています。

【 課 題 】

子育て支援センターや学童保育所では、子ども読書を支援するボランティアや市立図書館の団体貸出等の利活用を図る必要があります。

④ 公民館・その他の施設

【 現 状 】

本市には、公民館が11館あります。各地域の生涯学習活動の拠点となっており、ホール等に図書コーナーが設置されていますが、蔵書が古く、児童書も少ない状況です。

公民館事業の中では、夏休みに行われる小学生を対象とするサマーチャレンジ事業などで、子どもの読書に関する講座を開催しているケースもあります。

また、市民活動交流センター「はにぼんプラザ」では、多彩な文化行事や市民のクラブ活動が活発に行われ、中高生を中心とした若い世代が気軽に利用できる

文化拠点となっています。施設内には、市立図書館への返却ポストを設置し、図書館利用者の利便性の向上を図っています。

【 課 題 】

公民館の図書コーナーは、児童書の蔵書に変化がみられない状況です。また、公民館を活用して、現在開催されている講座や教室の他に、市立図書館やボランティアとの協力による「おはなし会」の開催等、子どもが本と出会う機会の拡充が求められます。

「はにぼんプラザ」では、多くの子どもが集まり、読書や勉強をしていることから、若い世代に支持されているヤングアダルト本をはじめとした話題の本に関する情報提供や講座の開催等、市立図書館との連携強化が必要です。

第3章 第3次計画の基本的な考え

1 計画の基本理念

本市の子どもが、さまざまな機会と環境において、誰もが本に慣れ親しみ、読書を楽しみながら、健やかに成長することが望まれます。

郷土の偉人・塙保己一の生き方や精神から学び、本市の教育大綱に掲げられた「世のため、後のための教育 ～未来を拓く人を育み、歴史と文化の薫るまち～」を基に人づくりを進めます。

本計画の基本的な考え方は、第2次計画期間における課題を踏まえ、次に掲げる基本理念に基づき、市民一体となって子どもの読書活動を推進します。

本庄市のすべての子どもが、「本を読むこと、聞くこと、見ること」を大切にし、読書を楽しめるようにします。

2 計画の目標

本市の子ども読書活動の課題に対応するため、本計画の目標を次のとおりとし、家庭・地域・市立図書館・学校・市内各施設での取組を推進していきます。

1. 読書によって心と感性を豊かにし、本の好きな子どもに育つよう、親子で本に親しむ習慣の定着を図ります。
2. 「本や物語を声に出して読むこと、聞くこと、見ること」を重視し、ブックスタート、読み聞かせ、おはなし会、朗読会、ストーリーテリング等の事業の充実を図ります。
3. すべての子どもが活発な読書活動を送れるように、各学校、施設、団体、市民が相互に連携・協力して、体制を整備します。

第4章 計画の推進に向けた取組

1 家庭における読書機会の提供と環境の充実

(1) 子どもと保護者が一緒に本を好きになることの推進

本を好きになることは、読書の習慣を身に付けるために重要なことです。日常的な家族のふれあいの中で子どもが本と親しむ環境を整えることが、読書好きの子どもを増やすことにつながります。また、子どもを本好きにするためには、保護者も本を好きになることが大切であり、子どもと保護者の双方が本を好きになるためのきっかけづくりを行います。

(2) 家庭読書の推奨

保護者が読書活動に対する理解を深め、読書や本を通じた家族のコミュニケーションを図る「家庭読書」により、日常的な読書習慣を身につけることが重要です。そのため、家庭の中では、子どもが自由に本とふれあい、いつでも手にできる環境をつくる必要があります。

本市では、子育て支援団体による各種子育て支援イベントや講座、また、「本庄市親の学習推進委員会」が中心に進めている「親の学習」の中で、「絵本の読み聞かせ」や「本の紹介」を行い、家庭において子どもが読書に親しむことの重要性をアピールしています。

今後も、これらの団体との連携を深め、家庭での読書を支援していきます。また、スマートフォンやタブレットを利用した電子書籍については、保護者がインターネット等の適正な使用を子どもに教え、活用していくことが大切です。

(3) ブックスタートの充実

保健センターで行われる9～10か月児健康相談時に、読み聞かせの実演や絵本の紹介、ブックリストの配布等を行う「ブックスタート」を実施しています。通常は、ブックスタートボランティアの協力を得て、親子一組ずつに読み聞かせの体験と、家庭でも楽しんでもらえるように絵本を贈呈していますが、コロナ禍においては、親子一組ずつの読み聞かせに代



えて、読み聞かせの様子をDVDで上映しています。アンケートによると、「ブックスタ

ート」を体験したことにより、「読み聞かせ」の重要性が理解され、家庭での「読み聞かせ」が増えるきっかけとなっていることがわかります。

コロナ禍収束後は親子一組ずつに対する読み聞かせを再開し、今後も、保健センターでの「ブックスタート」体験により、絵本を介して親と子が心ふれあうひとときを過ごせるよう、家庭での読み聞かせを応援していきます。

2 地域における読書機会の提供と環境の充実

(1) 地域の連携体制の構築

子どもの読書活動には、学校や市立図書館等の行政機関だけではなく、子育て支援団体・読み聞かせボランティア・学校応援団・民生委員・児童委員等多くの地域の人に関わっています。これらの連携を深めることで、より多くの子どもに本に親しむ機会を提供していきます。

(2) 地域の図書館等を支援する体制の整備

市立図書館や学校図書館、諸施設の図書室など、地域には様々な図書館があります。これらの図書館等は蔵書の整理や運営・管理など、様々な支援を必要としている場合があります。各施設等の要望に応じて、図書館等を支援するボランティアの養成を図ります。

(3) 「子ども読書の日（4月23日）」の取組

子どもの読書活動推進の重要性を地域に周知し、「子ども読書の日（4月23日）」に合せた啓発事業を実施します。

(4) 「秋の読書週間（10月27日～11月9日）」の取組

秋の読書週間のPRやそれに合わせたイベント等を開催し、子どもの読書活動を地域で推進します。

3 市立図書館における読書機会の提供と環境の整備・充実

(1) 蔵書の充実と貸出数の増加

市立図書館の貸出数に占める児童図書の比率は、団体貸出を含めると56.1%を占め、蔵書数に占める児童図書の比率は、38.4%となっております。子どもの発達段階やニーズに対応した蔵書をさらに充実させ、児童図書の貸出数を増やします。

(2) 子どもの市立図書館利用の促進

子どもの市立図書館利用状況のアンケートによると、「よく行く」、「ときどき行く」を合わせた割合は、小学生で48.4%と半分を下回り、中学生では33.8%、高校生では33.5%と低下しています。また、読みたい本を入手するために市立図書館を利用すると答えた割合は、小学生で14.1%、中学生で10.7%、高校生で11.8%とかなりの低水準となっています。

市立図書館では、ひとりでも多くの子どもに本への興味を持ってもらうため、子どもたちのニーズを把握し、幅広いジャンルの本を収集します。

また、児童室では、季節や話題に合わせて設定したテーマに基づくレイアウトやおすすめ本の掲示等を充実させ、より良い本に出会える書架づくりを目指し、いつでも気軽に相談を受けられるよう「フロアワーク*」に取り組みます。

さらに、中高生の利用を増やすため、「ヤングアダルトコーナー」では、若い人たちのニーズを反映させた、新刊本や話題本を提供できるようにするとともに、高校生が選んだおすすめの本の利用も広く呼びかけます。

各学校へのPRや市立図書館ホームページ等で、図書館の魅力を発信していきます。

(3) ボランティアの育成・支援

市立図書館で開催する事業の多くは、ボランティアの方々の協力により支えられています。また、市立図書館だけでなく、市内小学校にもそれぞれ読み聞かせのボランティア団体があり、子どもの読書に関する活動に、継続して協力をいただいています。

「本庄おはなしの会連絡会*」は、市立図書館が事務局となり、ボランティア同士の情報交換などを行い、子どもの読書活動に寄与するための知識を定期的に共有しています。

ボランティアの新たな人員の確保と読み聞かせ技術向上のため、コロナ禍での中断がありつつも、毎年「ボランティア養成講座」を開催しています。今後の事業拡大を見据え、養成講座の開催回数と会場を見直し、多くの方々の受講を増やすことによって、子どもの読書活動に必要なボランティアの育成・支援を行います。

▼読み聞かせボランティア養成講座



*フロアワーク…書架をめぐり、ひとりひとりの子どもに接すること。

*本庄おはなしの会連絡会…図書館と市内小中学校でそれぞれ活動している読み聞かせボランティアで構成される。

(4) 市立図書館の施設・設備の活用

市立図書館本館の「おはなしコーナー」では、親子での読み聞かせやボランティア団体の協力を得ての「おはなし会」等も定期的に行われています。コロナ禍においては、「おはなし会」の開催場所を参加者同士の距離をとることができる和室に移し、感染症対策を取りつつ「読み聞かせ」に親しむ機会を継続しています。

今後も、「おはなし会」を開催し、児童室の利用拡大を図ります。

また、「多世代交流室」においては、利用者同士の交流やWi-Fiの利用ができること等をPRし、若い世代の利用を増やします。

「中高生活動室」は、コロナ禍により利用中止を余儀なくされましたが、中高生向けの活動展示や情報収集に利用できること等をPRし、来館のきっかけとなる魅力ある場にしていきます。



▲おはなしコーナーでの「おはなし会」



▲3階 多世代交流室

(5) 読書に親しむための支援

市立図書館を通じて、子どもの読書活動が楽しく進められるよう、子どもの年代に合わせた推薦図書「図書館員が選んだ子どもの本」のパンフレットを設置しています。本の選び方の一助として、推薦図書の案内を行います。

また、平成28年度から開始した自分の読んだ本を記録できる「読書手帳」は、平成30年度からは小学1年生全員に配布していますが、まだまだ認知度は低く、アンケートで「知らない」と答えた小学生が57.7%にのぼっています。読書習慣の可視化をうながすためにも、「読書手帳」のより一層の周知に努めます。

学校と連携した事業のうち、小学校1年生全員への図書館利用カードの用意や小学校に巡回する移動図書館「ほきいち号」、また、それに合わせたクラス単位での団体貸出は、児童図書の貸出増加に直結していることから、今後も学校と協力し推進します。移動図書館や団体貸出で手に取った本を、小学1年生全員へ配布して

▼クリスマス会



いる「読書手帳」に記入してもらうことで、本を借りて読み、記録して読書の楽しさを思い返し、また読みたいと思って借りるというサイクルを生み出します。

さらに、「出張おはなし会*」は、対象学年や内容の拡充を図り、総合学習・チャレンジ学習における市立図書館の見学や中高生の職場体験を積極的に受け入れて、子どもに市立図書館と読書の魅力を伝えていきます。多くの子どもが市立図書館に足を運び、楽しんでもらえるようなイベントとして「工作教室」や「クリスマス会」、「DVD上映会」等を、季節ごとに開催します。



▲移動図書館車「ほさいち号」巡回中



▲高校生の就業体験の様子

(6) 読書に支援を要する子どもへの取組

活字に触れるのに困難があったり、日本語が母語ではなかったりする子どものために、「LLブック*」、「外国語資料」、「点字絵本」、「マルチメディアデージー*」等の収集や提供を行います。

4 学校等における読書機会の提供と環境の整備・充実

(1) 幼稚園・保育園(所)等での推進

幼稚園・保育園(所)等は、幼児が家庭以外で子どもの読書活動に関わる大事な場所です。幼児期に本を好きになることが、その後自ら本を手取る習慣の定着につながり、大人になってからも本を愛する読書好きな人になる可能性を高めます。

今後も、各園で日常的に行われている「絵本の読み聞かせ」や「おはなし会」等の継続と拡充が大切なため、「おはなし会」へのボランティア派遣や市立図書館の蔵書の団体貸出等の支援を行います。

また、幼稚園・保育園(所)等の関係者に読み聞かせの大切さを伝え、「おはなし会」等のイベントの周知を図るとともに、幼稚園・保育園(所)等と市立図書館が連携

* 出張おはなし会…図書館職員と読み聞かせボランティアが小学校に向向いて実施する「おはなし会」。

* LLブック…誰もが読書を楽しめるように工夫して作られた「やさしく読みやすい本」を指す。

* マルチメディアデージー…音声・画像・文字を同時に再生する電子図書。

して子どもの読書活動を推進します。

(2) 市立小学校・中学校での推進

① 「一斉読書」の充実

現在、ほぼ全ての小学校で授業開始前の朝に「一斉読書」を約15分間実施しています。中学校では、「一斉読書」に代えて「学習」を行う例も見られ、小学校では、学校行事等の都合で週に1回程度しか実施することができないのが実状です。

今後も、学校行事に配慮しつつ、「一斉読書」の時間の確保と読書量の増加が期待されます。

② 学校図書館の運営・整備の促進

学校の読書活動の中心である学校図書館には、子どもが自ら学ぶ学習情報センターの機能と、豊かな感性や情操を育む読書センターの機能が求められています。

今後も、良書の図書購入を継続するとともに、ICT環境を含めた学校図書館の整備を図り、学校応援団やPTA、ボランティアで貸出・修理等を行うなど、学校図書館の運営を支援します。

また、学校図書館には、担当者が常駐し子どもがいつでも利用できるように常時開放されていることや、蔵書が整備されていることが必要です。このため、全ての学校図書館に学校図書館支援員の配置を行います。

③ 「おはなし会」や「読み聞かせ」等の充実

子どもが本や読書を好きになるきっかけづくりのため、市立図書館職員、教員、読み聞かせボランティア等による、小学校での「おはなし会」や「読み聞かせ」をさらに充実するとともに、新たな本との出会いを創出する「ブックトーク」開催の拡大を図ります。

また、「ストーリーテリング」、「朗読会」を実施し、子どもが本や読書に親しむ機会を広げます。



▲小学校での「出張おはなし会」

④ 市立図書館からの団体貸出と移動図書館の利用

クラス単位で市立図書館の団体貸出を利用することにより、学級文庫としての活用や総合学習や調べ学習への活用を推進します。

また、小学校を巡回する移動図書館車「ほきいち号」では、積載図書分野や運行時間を検討し、子どもの読書の機会を広げます。

(3) 私立中学校及び高等学校での推進

① 私立中学校及び高等学校との連携体制の構築

私立中学校及び高等学校は、各校ごとに特色ある読書活動が行われていますが、相互の連携が希薄なため、市立図書館を中心にネットワーク作りを進めます。

各校の司書担当との意見交換等により、読書に対する中高生の読書傾向や最新のニーズを汲み取り、市立図書館、地域のボランティア団体の資源や人材、情報等を提供し、中高生の読書活動を支援します。

② 私立中学生及び高校生の読書活動事業への参加

中高生向けの「朗読会」、中高生による「読み聞かせ」ボランティアの体験、「ビブリオバトル」の開催等、中高生が本や図書館活動に触れる機会の提供を増やします。

5 児童施設等における読書機会の提供と環境の整備・充実

(1) 児童センターでの推進

児童センターの図書室は、遊びに来た子ども達や親子連れの方達が気軽に利用できる場所であることから、楽しく読書ができるよう図書の充実を図ります。また、「つどいの広場」や「子育て講座」で絵本等の活用や読み聞かせを行い、市立図書館と児童センターで情報交換等を行い、子育て支援団体との連携のもと、児童センターでの読書活動を推進します。

▼児童センター 図書室



(2) 保健センターでの推進

保健センターでは、親子の関係づくりや子どもの心を育む方法として、絵本の活用を推奨しています。親子での読み聞かせのきっかけとなる「ブックスタート」を継続し、実施方法の検討を含め、内容の充実に努めます。

また、引き続き、最新の児童書や「おはなし会」をはじめとする市立図書館のイベント情報を提供するとともに、親子の読書活動を支援します。

(3) 子育て支援センター・学童保育所での推進

子育て支援センターでは、市立図書館の団体貸出の利用や親子での絵本の楽しみ方を伝える「読み聞かせ」を引き続き行う中で、保護者へ読み聞かせの重要性を浸透させます。

学童保育所では、市立図書館の団体貸出を利用し、一人一人の興味や成長に応じた本を児童に提供することで、集団生活における読書習慣の定着を図ります。

(4) 公民館やその他施設での推進

公民館では、小学生を対象としたサマーチャレンジ事業に、子どもの読書に関する講座の開催や地域での「おはなし会」をはじめとする読書活動推進事業の会場として活用を図ります。また、市立図書館と市民総合大学との共催により、小・中学生を対象に本や読書に関係したカリキュラムを検討します。

その他の公共施設のうち、子ども世代の利用が多い「はにぽんプラザ」では、気軽に読書を楽しめる環境を整え、若い世代を対象とした読書講演会や展示会等の読書活動に関する開催会場として活用を図ります。

6 家庭・地域・学校・図書館の連携・充実

(1) 推進体制の整備

子どもが読書に親しむ体制を推進するため、家庭・地域・図書館・学校・児童施設・保健施設・社会教育施設等とPTAや各種ボランティア団体などが、それぞれの役割を担いながら、相互の連携、協力体制の充実を図ります。

市立図書館と小・中学校図書館との情報交換会を定期的に行うことや、おはなし会などのボランティア間の情報交換会により、「おはなし会」に向けた情報収集や他団体に貸出できる作品や読み聞かせ絵本リストの作成、配布などを行い、活動の活性化を図ります。

(2) 人材の育成と活用

- ① 市立図書館では、読み聞かせに関する知識習得や技術向上を支援し、ボランティアを育成します。
- ② 関係職員は各種研修会への参加により、知識習得や技術向上を図ります。
- ③ 小学校では、保護者と連携して読み聞かせボランティアの確保を行うなど、地域で活躍するボランティアの活用を図ります。

(3) 情報の提供と活用

- ① 家庭、地域、学校等が、それぞれの場所で具体的な活動が展開される中、市立図書館が相互の情報交換や意見交換を行うネットワークの拠点となることで、より効果的に活動を推進していきます。
- ② 子どもの読書活動の重要性を広く市民に知っていただくため、啓発・広報活動を行います。

資料編

■ 読書に関するアンケート調査結果 ■

「第3次本庄市子ども読書活動推進計画」の策定にあたり、現在の子ども達の読書に対する現状や課題を把握するため、個人・学校・施設・団体を対象にアンケート調査を実施しました。

調査の概要は以下の通りです。

【個別アンケート】

- (1) 調査時期 令和4年10月
 (2) 調査対象 幼児（年長組）と保護者・小学5年生・中学2年生・高校2年生
 (3) 調査回答数 1,146人

幼稚園・幼保連携型認定こども園・保育園（所）…13園222人
 小学校…12校281人
 中学校…6校365人
 高等学校…6校278人

◎アンケート実施にご協力いただいた学校等

幼稚園 認定こども園 保育園（所）	本庄青葉幼稚園 コウガの森・梅花 若草保育園 児玉櫻井幼稚園 久美塚保育所	若泉幼稚園 本庄幼稚園 本庄旭幼稚園 児玉の森こども園	本庄すみれ幼稚園 本庄東幼稚園 コウガの森・共和 いずみ保育所	
小学校	本庄東小学校 旭小学校 児玉小学校	本庄西小学校 北泉小学校 金屋小学校	藤田小学校 本庄南小学校 秋平小学校	仁手小学校 中央小学校 共和小学校
中学校	本庄東中学校 本庄東高等学校附属中学校	本庄西中学校 本庄第一中学校	本庄南中学校	児玉中学校
高等学校	本庄高等学校 本庄東高等学校	児玉高等学校 本庄第一高等学校	児玉白楊高等学校 早稲田大学本庄高等学院	

◆幼児（年長組）と保護者へのアンケート

【問1】 あなたとお子様は本を読むことが好きですか？（1つ選択）

（単位：％）

	好き	どちらかという好き	どちらかという嫌い	嫌い
子ども	52.1	39.8	7.2	0.9
保護者	33.3	47.8	16.7	2.2

◇子どもは「好き」と答えた割合が52.1%と最も多く、「好き・どちらかという好き」と答えた割合を合わせると9割を超え、保護者も8割にのぼる高い割合を示した。

【問2】 お子様には、どのくらいの頻度で本を読んであげていますか？（1つ選択）

（単位：％）

毎日	週に3・4回	週に1・2回	月に3回以下	ほとんど読んであげていない	その他
17.7	21.4	28.2	18.2	12.7	1.8

◇「毎日」「週に3・4回」「週に1・2回」と答えた割合を合わせると6割を超え、週に1回以上の読み聞かせが習慣化している家庭が半数を超えている。

【問3】 問2で「ほとんど読んであげていない」と答えた方、その理由は何ですか？（複数回答）

（単位：％）

読んであげる時間がないから	31.9
子どもがいやがるから	2.1
読ませたい本がないから	0
自分が本を読む習慣がないから	27.7
テレビやビデオがあるから	17.0
その他	21.3

◇「読んであげる時間がないから」と答えた割合が31.9%で最も多い。

【問4】 お子様の本を読んであげて、どのようなことを感じましたか？（複数回答）

（単位：％）

子育てが楽しくなった	5.9
子どもの心が豊かになった	20.4
子どもとのふれあいが多くなった	32.0
子どもが本好きになった	29.3
特に感じなかった	5.8
その他	6.6

◇「子どもとのふれあいが多くなった」「子どもが本好きになった」と答えた割合がともに高い。

【問5】 あなたは、「ブックスタート」を知っていますか？（1つ選択）

（単位：％）

知っている	聞いたことはあるが、 詳しくは知らなかった	知らなかった
61.2	13.2	25.6

◇「知っている」と答えた人の割合が61.2.％と半数以上にのぼる。

【問6】 「ブックスタート」を経験して、どうなりましたか？（複数回答）

（単位：％）

読み聞かせの重要性が理解できた	28.4
家での読み聞かせを増やすようになった	27.2
子どもが本好きになった	23.9
特に影響はなかった	18.3
その他	2.2

◇ブックスタートが読み聞かせのきっかけとなり、家での読み聞かせ機会の増加につながっていることがわかる。

【問7】 お子様の本は、どこで入手していますか？（複数回答）

（単位：％）

市立図書館で借りる	23.6
保育所や幼稚園で借りる	20.5
友人に借りる	0.5
書店で買う	43.2
その他	12.2

◇「書店で買う」と答えた割合が43.2.％と最も高く、次いで「市立図書館で借りる」と答えた割合が続く。

【問8】 最近1ヶ月間に、本を何冊くらい読みましたか？（1つ選択）

（単位：％）

	0冊	1～2冊	3～4冊	5～6冊	7～9冊	10冊以上
子ども	1.9	18.7	22.9	20.5	6.1	29.9
保護者	26.5	35.6	13.7	7.8	4.2	12.2

◇子どもは「10冊以上」と答えた割合が29.9.％と最も高いが、保護者は「0冊・1～2冊」と答えた割合が高い。

【問 9】 市立図書館を利用しますか？（1つ選択）

（単位：％）

よく行く	ときどき行く	行かない
15.0	36.8	48.2

◇「行かない」と答えた割合が5割近くを占め、利用の有無はほぼ二分される。

【問 1 0】 問9で「行かない」と答えた方、その理由は何ですか？（複数回答）

（単位：％）

場所がわからない	6.7
場所が遠い	7.9
仕事や家事で忙しく時間がない	27.5
本は買って読む	19.7
家族の持っている本を読む	21.3
読みたい本がない（なさそう）	3.4
本を読みたくない	0.6
その他	12.9

◇「時間がない」と答えた割合が27.5%で一番多く、購入や家族の所持など市立図書館を利用せずに読書を行うケースも多い。

【問 1 1】 市立図書館で行なっている「おはなし会」に参加したことがありますか？（1つ選択）

（単位：％）

よく参加している	0.5
何度か参加したことがある	18.9
参加したことはない	49.1
知らなかった	22.1
今後、参加してみたい	9.4

◇「よく参加している」「何度か参加したことがある」と答えた割合は2割に留まり、「知らなかった」と答えた割合が2割を超えている。

◆小学5年生へのアンケート

【問1】 あなたは、本を読むことが好きですか？（1つ選択）

（単位：％）

好き	どちらかという好き	どちらかという嫌い	嫌い
33.6	39.5	19.2	7.7

◇「どちらかという好き」と答えた割合が39.5%と最も多く、「好き・どちらかという好き」と答えた割合を合わせると全体の7割を占める。

【問2】 あなたは小さいとき、家で本を読んでもらいましたか？（1つ選択）

（単位：％）

よく 読んでもらった	時々 読んでもらった	あまり無かった	無かった	覚えていない
33.0	39.1	6.8	4.3	16.8

◇「よく読んでもらった」「時々読んでもらった」と答えた割合を合わせると72.1%となり、家で読み聞かせをしてもらった経験がある子どもが多いことがわかる。

【問3】 あなたが本を読むきっかけは何ですか？（複数回答）

（単位：％）

学校で本を読む時間があったから（朝の一斉読書など）	36.4
学校や図書館のおはなし会などに参加して、本に興味を持ったから	5.3
小さい頃、家族に本を読んでもらって楽しかったから	19.6
他人にすすめられたから	9.8
話題になっているから	10.5
作者が好きだから	6.7
その他	11.7

◇「学校での一斉読書」と答えた割合が最も高く、次いで「家での読み聞かせ」が多い。

【問4】 読みたい本をどのように読んでいますか？（複数回答）

（単位：％）

市立図書館で読んだり、借りたりする	14.1
学校の図書館で読んだり、借りたりする	25.1
友達に借りる	9.6
家族の持っている本を読む	16.6
買ってもらう	32.2
その他	2.4

◇「買ってもらう」と答えた割合が32.2%と最も高く、次いで「学校図書館で読む、借りる」が多い。

【問5】 最近1ヶ月間に、本を何冊くらい読みましたか？（教科書・マンガ・雑誌は除く）（1つ選択）

（単位：％）

0冊	1～2冊	3～4冊	5～6冊	7～9冊	10冊以上
18.5	21.3	24.9	15.3	6.1	13.9

◇「3～4冊」と答えた割合が24.9%と最も高く、「0冊」と答えた割合は18.5%となっている。

【問6】 問5で「0冊」と答えた方、あまり読まない理由は何ですか？（複数回答）

（単位：％）

勉強や習い事などで時間がないから	9.0
ゲームをしたり、友達と遊んだりするほうが楽しいから	37.1
本を読む習慣がないから	13.5
読みたい本がないから	16.8
本を読むことが嫌いだから	19.1
その他	4.5

◇「ゲームをしたり、友達と遊んだりするほうが楽しいから」と答えた割合が37.1%で最も多い。

【問7】 市立図書館を利用しますか？（1つ選択）

（単位：％）

よく行く	ときどき行く	行かない
4.7	43.7	51.6

◇「よく行く・ときどき行く」と「行かない」で二分されている。

【問8】 問7で「行かない」と答えた方、その理由は何ですか？（複数回答）

（単位：％）

場所がわからない	10.8
場所が遠い	8.9
勉強や習い事などで時間がない	14.2
本は買って読む	26.5
家族の持っている本を読む	14.2
読みたい本がない（なさそう）	13.5
本を読みたくない	6.9
その他	5.0

◇「本は買って読む」と答えた割合が26.5%で一番多く、「家族の持っている本を読む」「勉強や習い事などで時間がない」がともに14.2%と続く。

【問 9】 移動図書館を利用しますか？（1つ選択）

（単位：％）

毎回利用する	ときどき利用する	低学年のときは利用したが今はしない	利用したことがない
2.8	12.5	75.1	9.6

◇「低学年のときは利用したが今はしない」と答えた割合が 75.1%で最も多い。

【問 1 0】 市立図書館や学校の図書館では、どのような本を借りますか？（複数回答）

（単位：％）

学習に必要な、調べるための本	11.2
料理やスポーツなど趣味の本	17.2
物語や小説など	40.6
マンガ	24.2
その他	6.8

◇「物語や小説など」と答えた割合が 40.6%で一番高く、次いで「マンガ」と答えた割合が多い。

【問 1 1】 市立図書館本館の3階には、インターネットを利用できたり、食べたり飲んだりできる「多世代交流室」があることを知っていますか？

（単位：％）

知っている	16.4	知らない	
利用したことがある	46.2	利用したことはない	53.8
			81.1

◇「知らない」と答えた割合が 8割を超えている。

【問 1 2】 本を読むとき、電子書籍で読んだことがありますか？（1つ選択）

（単位：％）

よく読んでいる	5.8
何度か読んだことがある	15.6
あまり読んだことはない	10.1
読んだことはない	38.8
電子書籍のことを知らない	29.7

◇「読んだことはない」「知らない」と答えた割合を合わせると 68.5%となり、馴染みの深いものとは言い難い。

【問 1 3】 無料で電子書籍が読めるようになれば、利用したいですか？（1つ選択）

（単位：％）

利用したい	利用したくない	わからない
57.1	8.4	34.5

◇「利用したい」が 57.1%と最も高いが、「わからない」も 34.5%と高くなっている。

【問14】 市立図書館の読書手帳を使っていますか？（1つ選択）

（単位：％）

使っている	使っていない	知らない
9.8	32.5	57.7

◇「知らない」が57.7%で最も多い。

◆中学2年生・高校2年生へのアンケート

【問1】 あなたは本を読むことが好きですか？（1つ選択）

（単位：％）

	好き	どちらかという好き	どちらかという嫌い	嫌い
中学生	36.5	43.9	15.2	4.4
高校生	32.4	41.4	18.7	7.5

◇高校生になると「好き」と答えた割合は下がるものの、「好き・どちらかという好き」を合わせると、中学生では80.4%、高校生では73.8%と全体の7割以上となっている。

【問2】 小さいとき、家の人に本を読んでもらったことがありますか？（1つ選択）

（単位：％）

	よく読んでもらった	時々読んでもらった	あまり無かった	無かった	覚えていない
中学生	36.8	30.8	11.2	5.5	15.7
高校生	37.4	36.3	11.5	2.2	12.6

◇中学生・高校生ともに「よく読んでもらった」「時々読んでもらった」と答えた割合を合わせると7割近くとなり、家での読み聞かせをしてもらった子どもが多い。

【問3】 あなたが本を読むきっかけは何ですか？（複数回答）

（単位：％）

	中学生	高校生
学校で本を読む時間があったから（朝の一斉読書など）	43.1	36.8
学校や図書館のおはなし会などに参加して、本に興味を持ったから	2.3	5.6
小さい頃、家族に本を読んでもらって楽しかったから	9.8	13.7
他人にすすめられたから	10.7	8.6
話題になっているから	14.8	18.3
作者が好きだから	10.9	10.6
その他	8.4	6.4

◇中学生・高校生ともに「学校での一斉読書」が最も多く、次いで「話題になっているから」が多い。

【問4】 読みたい本をどのように読んでいますか？（複数回答）

（単位：％）

	中学生	高校生
市立図書館で読んだり、借りたりする	10.7	11.8
学校の図書館で読んだり、借りたりする	13.9	13.0
友達に借りる	7.1	10.2
家族の持っている本を読む	17.7	11.4
買って読む	48.5	51.9
その他	2.1	1.7

◇中学生・高校生ともに「買って読む」と答えた割合が一番高く、本を購入して読んでいる子どもが多い。

【問5】 最近1ヶ月間に、本を何冊くらい読みましたか？（教科書・マンガ・雑誌は除く）（1つ選択）

（単位：％）

	0冊	1～2冊	3～4冊	5～6冊	7～9冊	10冊以上
中学生	16.7	51.0	21.3	4.1	2.2	4.7
高校生	52.9	35.6	7.3	2.1	0	2.1

◇中学生は「1～2冊」が、高校生は「0冊」が最も多くなっている。

【問6】 問5で「0冊」と答えた方、あまり読まない理由は何ですか？（複数回答）

（単位：％）

	中学生	高校生
勉強やクラブ活動などで時間がないから	22.6	29.8
ゲームをしたり、友達と遊んだりするほうが楽しいから	27.8	21.6
本を読む習慣がないから	20.0	22.5
読みたい本がないから	15.7	15.3
本を読むことが嫌いだから	10.4	8.1
その他	3.5	2.7

◇中学生では「ゲームをしたり、友達と遊んだりするほうが楽しいから」、高校生では「勉強やクラブ活動などで時間がないから」と答えた割合が一番多かった。

【問7】 市立図書館を利用しますか？（1つ選択）

（単位：％）

	よく行く	たまに行く	行かない
中学生	2.5	31.3	66.2
高校生	5.8	27.7	66.5

◇中学生、高校生ともに「行かない」と答えた割合が一番高く、市立図書館を利用していると回答した中学生、高校生はともにおよそ3割であった。

【問8】 問7で「行かない」と答えた方、その理由は何ですか？（複数回答）

（単位：％）

	中学生	高校生
場所がわからない	4.1	8.0
場所が遠い	11.8	16.7
勉強や部活で忙しく時間がない	21.0	18.8
本は買って読む	30.0	26.8
家族の持っている本を読む	9.2	3.2
読みたい本がない（なさそう）	15.6	14.3
本を読みたくない	4.9	8.7
その他	3.4	3.5

◇中学生、高校生ともに「本は買って読む」と答えた割合が最も多かった。

【問9】 市立図書館や学校の図書館では、どのような本を借りますか？（複数回答）

（単位：％）

	中学生	高校生
学習に必要な、調べるための本	13.9	21.3
料理やスポーツなど趣味の本	17.2	8.9
物語や小説など	42.3	40.7
マンガ	19.0	21.5
ヤングアダルト本	3.2	3.4
その他	4.4	4.2

◇中学生、高校生ともに「物語や小説など」が一番多く、次に多いのが「マンガ」だった。

【問 1 0】 市立図書館本館の3階には、Wi-Fi でインターネットにつながり、飲食もできる「多世代交流室」や中高生向けの部屋「中高生活動室」があるのを知っていますか？

(単位：%)

	知っている	利用したことがある	利用したことはない	知らない
中学生	28.4	(52.7)	(47.3)	71.6
高校生	13.5	(40.0)	(60.0)	86.5

◇中学生、高校生ともに「知らない」と答えた割合が圧倒的に多い。

【問 1 1】 中高生活動室では、どんな利用をしてみたいですか？(複数回答)

(単位：%)

	中学生	高校生
中学・高校の情報交換や交流活動をしてみたい	17.6	15.5
中学生・高校生限定の勉強の部屋として利用したい	51.0	58.4
ヤングアダルト本やマンガを置いてほしい	20.3	18.6
お勧め本を紹介しあう(ビブリオバトル)の場として利用したい	7.0	5.5
その他	4.1	2.0

◇中学生、高校生ともに「勉強の部屋として利用したい」と答えた割合が半数を超え、最も多かった。

【問 1 2】 本を読むとき、電子書籍で読んだことがありますか？(1つ選択)

(単位：%)

	中学生	高校生
よく読んでいる	18.4	23.6
何度か読んだことがある	30.0	28.6
あまり読んだことはない	17.3	15.9
読んだことはない	29.1	27.2
電子書籍のことを知らない	5.2	4.7

◇中学生、高校生ともに「読んだことはない」と答えた割合がおよそ3割となっているが、「よく読んでいる」「何度か読んだことがある」を合わせるとおよそ5割が電子書籍を利用している。

【問 1 3】 無料で電子書籍が読めるようになれば、利用したいですか？(1つ選択)

(単位：%)

	利用したい	利用したくない	わからない
中学生	70.4	6.3	23.3
高校生	62.0	9.8	28.2

◇中学生、高校生ともに「利用したい」が最も多く、小学生(57.1%)以上にニーズが窺える。

【学校・施設・団体アンケート】

- (1) 調査時期 令和4年10月
 (2) 調査対象 市内幼稚園・保育園・幼保連携型認定子ども園・小学校・中学校
 高等学校・児童センター・子育て支援団体
 ブックスタートボランティア

- (3) 調査回答数
- | | |
|--|--|
| | 幼稚園・幼保連携型認定こども園・保育所…20園
小学校…12校、中学校…6校、高等学校…6校
児童センター…3ヶ所
子育て支援団体…15団体
ブックスタートボランティア…12人 |
|--|--|

◎アンケート実施にご協力いただいた学校・施設・団体等

幼稚園 保育園 認定こども園	本庄青葉幼稚園 本庄幼稚園 本庄旭幼稚園 児玉の森こども園 本庄保育園 旭保育園 西光第二保育園	若泉幼稚園 本庄東幼稚園 コウガの森・共和 久美塚保育所 小島南保育園 みどり保育園 秋平さくら保育園	本庄すみれ幼稚園 若草保育園 児玉櫻井幼稚園 日の出保育園 聖徳本庄保育園 藤田保育園	
小学校	本庄東小学校 旭小学校 児玉小学校	本庄西小学校 北泉小学校 金屋小学校	藤田小学校 本庄南小学校 秋平小学校	仁手小学校 中央小学校 共和小学校
中学校	本庄東中学校 本庄東高等学校附属中学校	本庄西中学校 本庄第一中学校	本庄南中学校 本庄第一中学校	児玉中学校
高等学校	本庄高等学校 本庄東高等学校	児玉高等学校 本庄第一高等学校	児玉白楊高等学校 早稲田大学本庄高等学院	
児童センター	前原児童センター 日の出児童センター	児玉児童センター		
子育て支援団体	おはなしラビット コットンキャンディ ひなたぼっこ 金屋っ子 子育て応援団「本庄びすけっと」	森のこみち あおぞら 語りの会「ことより」 本庄ほんの会	絵本の森 どんぐり こだまっ子 こだまお話しの会	Green Leaf わかば

■ 学校・施設からのご意見 ■

◆学校図書館について

- ・毎日勤務して下さる方がおらず児童のみの時間が合ったり本の管理に割く時間がなかなかとれない。
- ・高校図書館との兼務なので、なかなか中学校図書館に手が回らない。
- ・授業がいそがしく、特に大きい学年は授業中に図書館に行く時間が持てなかったり、タブレットで調べ物ができてしまうので、足が遠のいてしまう。
- ・カードでの管理なので、本の管理がしにくい。
- ・低学年が借りにくい（本の題名を書けないため）
- ・自分の好みの本を持参している生徒が多く、利用者が少ないので、購入する本を考えている。
- ・コロナで図書館利用制限が続いたため、利用者がなかなか増えない。
- ・生徒の知的好奇心を刺激したり、社会に関心を持てるような展示を行う。

他

◆市立図書館について

- ・月に1度でも良いので、上里町のように図書館の方に来ていただき本の整理、運営のアドバイスなどいただけると助かります
- ・本の修理の仕方をご指導いただきたいです。
- ・図書委員会や国語の授業で作成しているおすすめ本のPOPを市立図書館で展示させてもらいたい。
- ・中学生たちは自習室へよく行く子がいるようです。使いごちの良い図書館なのだ、と思っています。
- ・団体貸出本、各クラスの希望を事前にきいていただき有効に利用させていただいています。

他

◆学校図書館と市立図書館の協力体制について

- ・1年生に向けた出張おはなし会は、よく工夫され、1年生がおはなしの世界に入っていくよいきっかけになっていると思います。
- ・幼稚園・保育所等でも「年に数回でも出張おはなし会を設けても良いと思う」との意見多数。
- ・小学校高学年が参加できる会があれば紹介してほしい。
- ・「市内高校生ビブリオバトル開催」「高校生による読み聞かせボランティア」の実施希望。

他

■ 子育て支援団体からのご意見 ■

(1) 団体の活動の中で困っていることや課題

<p>◆会員の確保が難しい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎年ある程度の新メンバーが入らないので子供の卒業と共に現役メンバーが減っていく。 ・現在はメンバーがOB中心なので、後に続いてくれるメンバーが増えると良いと思っている。 ・会員の高齢化や仕事との両立等で実質活動人数が減っているので、目下、会員を増やすのが課題。 ・なかなか仲間を増やせずにいます。 <p style="text-align: right;">他</p>
<p>◆学校図書館の蔵書について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校図書室の図書が古い。仕方ないのかもしれないが、読み聞かせで紹介した本を図書室でも読めるのが理想だと思う。学校側としては「古い本を簡単に廃棄できない。」「新しい本を入れる棚がない。」「作りつけの棚なので交換できない。」だそうです。
<p>◆おはなし会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・活動当初より子供達の年齢が低くなり、小学生の足が遠のいてしまった事。やはり本離れという事につながっているのでしょうか。
<p>◆コロナの影響について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大型絵本などを使用する為2人ペアでクラスに入るので、全学年での読み聞かせが出来なくなった。 ・大型絵本は数が少なく、絵本でも遠目のきく本を選ばなければなど、本の選書が難しくなった。 ・座席での読み聞かせは、前列の端の生徒が見づらくなっている。 ・学校での打ち合わせ、練習ができなくなった。

(2) 今後市として必要な取り組み・図書館への要望や提案

<p>◆学校図書館について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書館に設置されている本の除菌機を各校に設置して欲しい。 ・子どもたちが1番身近に本を手にとることができるように、学級文庫の充実を希望します。 ・蔵書の内容充実(学校図書室) 古すぎるものはなるべく処分して新刊をそのぶん触れさせて欲しい。 <p style="text-align: right;">他</p>
--

◆市立図書館に関すること

- ・図書館の絵本コーナーのみ絵本の陳列を本の題名での五十音順にさせていただけると子供も大人もより読みたい絵本をすぐに探すことができますと思います。
- ・本に接する機会を増やせるよう、身近にアクセスできる場として、各地域の公民館や児童館を利用して、自由に閲覧できる図書コーナー（図書室のある公民館もあり）を設置・整備してはどうか。
- ・主要の施設（市役所、はにぼんプラザ、各公民館等）に貸出用のリクエストBOX等の受付の場所等があれば良いかと思えます。
- ・本庄駅は多くの高校生が利用しており、電車の遅延や雷雨の際の待ち時間に利用できる図書館があれば良いのと思っています。昼は子育て支援やマンションに住む高齢者の方、夕方～夜は学生が利用できる場所が欲しいです。

他

◆読書活動を進めるための事業の推進

- ・読書推進キャンペーンとして、小学生を対象に、例えば、年1回、読書、本にまつわる俳句を公募。優秀俳句をいくつか選句して、図書館のHPや図書館便りで紹介。読書促進の図書館グッズとしてそれらを印刷した「栞」を作って（市後援）、図書館・児童館・公民館などに置いて利用者に提供できたらよいのでは。
- ・おはなしの会定例会でも他団体の実践など聞いて有意義なのですが、その他で何か講座や交流会みたいなものがあると嬉しいです。
- ・ブックスタートに続くセカンドブック事業を行う。
- ・市の公民館講座で、「よみきかせのすすめ」として、親やシニアによる家庭などでのよみきかせ推進のお手伝いになるような講座を開いてはどうか。

他

■ ブックスタートボランティアからのご意見 ■

(1) 現在のブックスタート事業における、課題や気になること

◆コロナ禍での実施に関して

- ・今までは少しでも慣れてほしいと思って子供の顔のそばで読んだり、手に触れたりすることもありましたがこれからはそれがだめだと思うので、興味をもってもらいながら読むのは難しいかなと思っています。
- ・コロナ感染予防の対策は必要だと思いますが、実際に絵本に触れてもらっての配布は、そろそろ始めてもいいのでは。

他

(2) ブックスタート事業を推進していくために必要な取り組み

- ・研修をできる限り多く行ってほしいです。
- ・10ヶ月児検診と3歳児検診で絵本を1冊ずつ送る様な1回で終わらない様な取り組み。

(3) 今後市として必要な取り組み・図書館への要望や提案

- ・学校と連携し、図書館見学を学校行事に組み入れてもらう。図書館を身近に感じてもらう本が借りやすいと印象付ける。
- ・ボランティアのフォローアップ研修。
- ・来るだけで“ワクワクする図書館”をコンセプトにコロナでまだまだ制約があると思いますが、「宝・さがし大会」（指定の本をさがす）とか。
- ・猫ちゃん・ワンちゃん特集。
- ・「絵本とわらべうたのおはなし会」が本館と分館で月1回ずつ催されていて、その日は赤ちゃんを連れていても図書館に行きやすいのではないかと思います。そういう日がもう少しだけ増えたらいいなと願っています。
- ・本庄市に転居された方も多く、図書館の場所を知らない、わかりづらいとの意見があります。親子で図書館へ通える様な行事が増えればと思います。
- ・移動図書館→車で本棚を運ぶだけでなく、移動図書広場のような活動はどうでしょうか。

他

参 考 資 料

子どもの読書活動の推進に関する法律 (平成13年12月12日法律第154号)

(目的)

第一条 この法律は、子どもの読書活動の推進に関し、基本理念を定め、並びに国及び地方公共団体の責務等を明らかにするとともに、子どもの読書活動の推進に関する必要な事項を定めることにより、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的かつ計画的に推進し、もって子どもの健やかな成長に資することを目的とする。

(基本理念)

第二条 子ども（おおむね十八歳以下の者をいう。以下同じ。）の読書活動は、子どもが、言葉を学び、感性を磨き、表現力を高め、創造力を豊かなものにし、人生をより深く生きる力を身に付けていく上で欠くことのできないものであることにかんがみ、すべての子どもがあらゆる機会とあらゆる場所において自主的に読書活動を行うことができるよう、積極的にそのための環境の整備が推進されなければならない。

(国の責務)

第三条 国は、前条の基本理念（以下「基本理念」という。）にのっとり、子どもの読書活動の推進に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

(地方公共団体の責務)

第四条 地方公共団体は、基本理念にのっとり、国との連携を図りつつ、その地域の実情を踏まえ、子どもの読書活動の推進に関する施策を策定し、及び実施する責務を有する。

(事業者の努力)

第五条 事業者は、その事業活動を行うに当たっては、基本理念にのっとり、子どもの読書活動が推進されるよう、子どもの健やかな成長に資する書籍等の提供に努めるものとする。

(保護者の役割)

第六条 父母その他の保護者は、子どもの読書活動の機会の充実及び読書活動の習慣化に積極的な役割を果たすものとする。

(関係機関等との連携強化)

第七条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策が円滑に実施されるよう、学校、図書館その他の関係機関及び民間団体との連携の強化その他必要な体制の整備に努めるものとする。

(子ども読書活動推進基本計画)

- 第八条 政府は、子どもの読書活動の推進に関する施策の総合的かつ計画的な推進を図るため、子どもの読書活動の推進に関する基本的な計画（以下「子ども読書活動推進基本計画」という。）を策定しなければならない。
- 2 政府は、子ども読書活動推進基本計画を策定したときは、遅滞なく、これを国会に報告するとともに、公表しなければならない。
 - 3 前項の規定は、子ども読書活動推進基本計画の変更について準用する。

(都道府県子ども読書活動推進計画等)

- 第九条 都道府県は、子ども読書活動推進基本計画を基本とするとともに、当該都道府県における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該都道府県における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「都道府県子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。
- 2 市町村は、子ども読書活動推進基本計画（都道府県子ども読書活動推進計画が策定されているときは、子ども読書活動推進基本計画及び都道府県子ども読書活動推進計画）を基本とするとともに、当該市町村における子どもの読書活動の推進の状況等を踏まえ、当該市町村における子どもの読書活動の推進に関する施策についての計画（以下「市町村子ども読書活動推進計画」という。）を策定するよう努めなければならない。
 - 3 都道府県又は市町村は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画を策定したときは、これを公表しなければならない。
 - 4 前項の規定は、都道府県子ども読書活動推進計画又は市町村子ども読書活動推進計画の変更について準用する。

(子ども読書の日)

- 第十条 国民の間に広く子どもの読書活動についての関心と理解を深めるとともに、子どもが積極的に読書活動を行う意欲を高めるため、子ども読書の日を設ける。
- 2 子ども読書の日は、四月二十三日とする。
 - 3 国及び地方公共団体は、子ども読書の日趣旨にふさわしい事業を実施するよう努めなければならない。

(財政上の措置等)

- 第十一条 国及び地方公共団体は、子どもの読書活動の推進に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講ずるよう努めるものとする。

附 則

この法律は、公布の日から施行する。

【第3次本庄市子ども読書活動推進計画】

発行 本庄市
編集 本庄市立図書館
〒367-0054 本庄市千代田4丁目1番9号
TEL 0495-24-3746
FAX 0495-24-3718
e-mail tosyokan@city.honjo.lg.jp



本庄市マスコット

はにぼん